

わが

夢かなうまち おびひろ

十勝の中核都市 帯広

4月放映開始予定のNHK連続テレビ小説「なつぞら」の舞台となる北海道・十勝。

北は大雪山、東は阿寒摩周の二つの国立公園、西は日高山脈襟裳(えりも)国定公園に囲まれた、1市16町2村で構成されるこの地域は、全道面積の13%を占めており、岐阜県



十勝平野の雄大なパッチワークの田園風景

とほぼ同じ面積を有しています。きれいな空気とおいしい水、美しい景観を有する田園空間と先人たちのためまぬ努力により、安全・安心な農畜産物を数多く生み出す、日本の食料基地として発展を続けて

おり、カロリーベースでの食料自給率は1200%を超え、約34万人が住む地域で約400万人分もの食料を生産しています。

帯広市は、この十勝の中心に位置し、高速道路や鉄道網、とちち帯広空港を通じた十勝の玄関口となっており、産業経済、教育、福祉、行政などの都市機能が集積した十勝の中核都市です。

森に囲まれた街

街を森で囲んだオーストリアの「ウィーンの森」をモデルとして、1975年に開催された市民植樹祭から造営が始まった「帯広の森」は、都市計画決定面積が406.5ha、幅が約550m、延長は約11kmの規模を有する広大な都市公園で、北東に広がる十勝川と札内川の河畔林と連携して市

街地を包み込むように配置されています。

「帯広の森」は、憩いの場、学習の場、交流の場、スポーツの場などの機能を有し、多くの市民に幅広く利用されており、スピードスケートのナショナルトレーニングセンター競別強化拠点として指定を受けている「明治北海道十勝オーバル」もここに所在しています。



100年をかけ市民でつくる「帯広の森」

100年の計画期間で進める帯広の森づくりは、市民自らの手で植樹し、はぐくまれてきた市民が誇る財産であり、日本国内においても例の見ない特徴ある都市構造を築き上げてきています。

「フードバレーとかち」のまちづくり

地域の「稼ぐ」をつくる

2010年に市長就任以来、地域の成長戦略として「フードバレーとかち」を旗印に、地域の強みである「食」と「農林漁業」を柱に、基幹産業である農業の成長産業化や食の付加価値向上、地域の魅力発信などに取り組んでいます。

2011年には、食産業の研究開発・輸出拠点の形成を目指して、北海道、札幌市などと十勝19市町村が連携し、「北海道フードコンプレックス国際戦略総合特区」として国の指定を受けたほか、2013年には、十勝19市町村として国の「バイオマス産業都市」に選定されており、両制度を活用

した十勝への設備投資などの誘発額は550億円を超えています。

さらに、異質な発想を持つ全国の革新者と十勝で起業・第二創業を目指す人材との化学反応による事業創発を目指す」とかち・イノベーション・プログラム」を2015年から実施しており、2017年度までに316名が参加し、33件の事業構想が生まれ、10件が事業化に結びついています。

2015年の国勢調査の結果では、道内で唯一人口が増加した札幌市を含む石狩地域を除くと、十勝は人口の減少率が最も低く推移しているほか、2018年3月に国立社会保障・人口問題研究所が発表した将来推計の道内主要都市の比較においても、本市の人口減少率は札幌市に次いで2番目に低くなっているなど、こうした「フードバレーとかち」の取り組みの成果が表れていると考えられます。

開拓の歴史を今につなぐ 世界で唯一の「ばんえい競馬」

体重1tを超える馬が重りを乗せた鉄ソリを引いて、直線コース

で力とスピードを競う世界で唯一の「ばんえい競馬」は、長年、北海道内の自治体が共同で運営してきましたが、2007年度から本市が単独で開催しています。

単独開催への移行後、一時、売り上げは減少しましたが、市民や全国のファンの皆さまからの応援に支えられながら、ナイター開催日の増加やインターネットを活用した勝馬投票券の販売拡大などに取り組み、2017年度には、発売額が過去最高の約220億円を記録するまでとなり、近年は堅調に推移しています。

明治時代の北海道開拓において、交通、運搬、農作業などに活躍した馬の価値や力を試すための



世界で唯一のばんえい競馬

競争として始まった「ばんえい競馬」は、北海道開拓の歴史を今日に伝える文化遺産であるとともに、人々に感動を与える本市の貴重な観光資源となっています。

市民と開く 十勝・帯広の未来

約130年前、十勝・帯広を開拓したのは、官主導の屯田兵ではなく、大きな夢と開拓者精神溢れ

る民間の開拓移民でした。

十勝・帯広には、将来への発展の可能性が大きく広がっています。未来に挑戦する進取の精神を受け継ぐ市民とともに、新しい開拓の時代に覚悟を持って向き合い、知恵や情熱を結集し、すべての市民の幸せを座標軸に据えながら、「夢かなうまち おびひろ」の実現に向けて全力で取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 619.34 km²
- ◆ 人口 16万6980人
- ◆ 世帯数 8万7690世帯

〔将来都市像〕人と環境にやさしい活力ある 田園都市 おびひろ

〔まちの特徴〕十勝平野の中心部に位置し、都市と農村が調和した、澄んだ青空、どこまでも続く雄大な大地に恵まれたまち

〔特産品〕小麦、馬鈴薯、てん菜（ビート）、豆類、長いも、乳製品、スイーツ、豚丼



帯広市長
米沢則寿



〔観光〕愛国・幸福駅、ばんえい競馬、紫竹ガーデン、真鍋庭園、ポロシリ自然公園、岩内仙峡、北の屋台

〔イベント〕帯広三大大まつり（おびひろ平原まつり、おびひろ菊まつり、おびひろ氷まつり）、勝毎花火大会、とかちマルシェ、フードバレーとかちマラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

大津再生 イノベーション&サステナビリティ

琵琶湖と 世界文化遺産の延暦寺

琵琶湖の南西に広がる滋賀県



世界文化遺産「延暦寺根本中堂」

の県庁所在地で、2018年に市制120周年を迎えました。天智天皇が建都した近江大津宮、明智光秀の坂本城など1350年以上の古都。最澄が比叡山で天台宗を開宗した世界文化遺産の延暦寺や三井寺、石山寺などの古社寺や史跡、名勝が数多く、国指定文化財保有件数の多さは、京都、奈良に次いで全国3番目を誇ります。

子どもと女性 住む人を増やす

人口減少の中、まずは大津に住む人を増やします。これまで女性は社会の中で仕事か子育てかの二者択一を迫られてきました。この状況を大津から変え、女性

が自由に選択できるまちをつくりたい。まず、待機児童の解消に取り組み、6年間で民間保育所等の入所定員を2300人増やし、

2015年4月から年度当初の待機児童が3年連続ゼロとなりました。これらの結果、子どもを育てる女性の特別徴収者数は2011年から5年で1.5倍に増加し、2017年には、いわゆるM字カーブが無くなりました。また、合計特殊出生率は2005年には1.24だったのが2015年には1.5に上昇しました。

データサイエンスと テクノロジ

子育てや女性への政策も、根拠



比叡山から望む大津市と琵琶湖

に基づいた施策の展開が重要であり、2018年4月にデータサイエンスによる仕事の進め方を重視し、データラボという組織を

新たに設置しました。また、高齢者などのオンデマンドモビリティを見据え、自動運転の実用化にも取り組んでいます。

持続可能なまちへ 民間にできることは 民間で

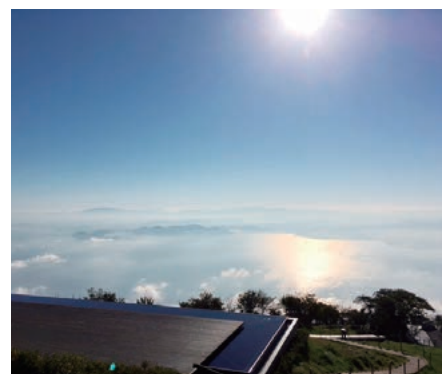
少子高齢化が進み、人口減少社会へと進む中で、税収が減っ

ていきます。このために、将来の人口規模に応じた社会資本のスリム化やコンパクト化、PPP手法などさまざまな形態での民間活力を導入していくことが必要です。

2011年に廃止した競輪場跡地は、現在、民間事業者が競輪場施設を解体し、商業施設と多目的広場を整備中です。また、ガス

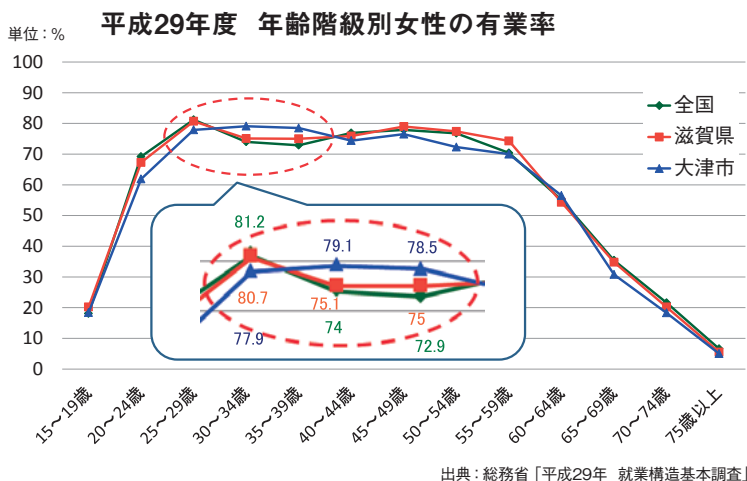
事業については、資産は市が保有したまま運営権を民間に渡すコンセッション方式を全国で初めて採用し、本年4月からの事業開始を目指しています。

平成の次の時代にも市民にとって持続可能で住み続けたいと願われるまちへとベンチャー精神のごとく、変革を遂げていきます。



びわ湖テラスからの眺望

年齢階級別女性の有業率



大津市の女性の有業率の推移 (M字カーブの改善)

プロフィール



大津市長
越 直美

- ◆ 面積 464.51km²
 - ◆ 人口 34万2919人
 - ◆ 世帯数 14万8048世帯
- 〔将来都市像〕「ひと、自然、歴史の縁で織りなす 住み続けたいまち。大津再生」 ～コンパクトで持続可能なまちへの変革～
- 〔まちの特徴〕琵琶湖と比叡・比良の山々、その間に広がる里山と河川などの自然をぜひたくに享受できる、住環境高質のまち
- 〔市町村合併〕2006年3月20日、



- 志賀町合併
- 〔特産品〕湖魚佃煮、しじみ、鮎寿司、大津絵
- 〔観光〕比叡山延暦寺、園城寺(三井寺)、石山寺、琵琶湖クルーズ、琵琶湖疏水通船、びわ湖パレイ・びわ湖テラス
- 〔イベント〕大津三大祭り(大津祭・山王祭・船幸祭)、びわ湖大花火大会、びわ湖毎日マラソン大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

旧町の互いの長所を伸ばし合う
まちづくりを推進

南九州市について

南九州市は日本一名前の長い市です。平仮名にすると「みなみきゅうしゅうし」と十文字にもなります。

では、本市はどこにあるかと聞



市内各地に広がる広大な知覧茶の茶畑

みなみきゅうしゅう

かれて読者の皆さんはすぐに思いつくでしょうか。「北九州市（福岡県）の南隣にあるのでしょうか」とか、「南九州大学（宮崎県）のあるまちですか」とか言われたこともありま。まだまだ全国的には知名度がイマイチといったところでしょうか。本市は、2007年12月に同程度の人口規模を有していた鹿児島県の知覧町、川辺町、穎娃町が対等合併する形で誕生したまだまだ新しいまちだからです。

それぞれの個性を生かして

知覧地域には、太平洋戦争末期、爆弾を搭載した航空機でアメリカの敵艦に体当たり攻撃を行った陸軍の特別攻撃隊、いわゆる特攻隊の出撃基地がありました。V

6の岡田准一さん主演の『永遠の0』や高倉健さん主演の『ホテル』

（知覧地域がロケ地）などでご存じの方も多いいのではないのでしょうか。当時の史料を数多く展示している「知覧特攻平和会館」には、映画の影響などにより、実際の特攻隊員の姿を知りたいと思う方が今も多く訪れています。

川辺地域には良質な肉質を誇るかわなべ牛や川辺仏壇といった特産品があり、穎娃地域には鹿児島名産の焼酎の原料となるさつまいもなどさまざまな農産品も豊富です。また、各地域共にお茶が栽培され、荒茶の生産量は日本全体の約14%を占め、日本一の茶産地です。

旧3町とも歴史や文化が異なることから調和を図りながら一体感を醸成してきたのが今までの歩み

であったと思います。これからはそれぞれの個性を尊重しながらも一体感を持ってまちづくりを行う新しい段階に踏み込んでいると思います。まず、2017年4月にはそれまでバラバラだった緑茶の銘柄を「知覧茶」に統一しました。これまで各地域の農家が大切にしてきたお茶作りの思いが名実ともに一つになったと思います。これからは今まで以上に知覧茶の魅力伝えていきたいと思。また、同年12月には、本市の将来を担う中学生に市のロゴマークや「みな、みりよく」というキャッチコピーを考してもらいました。このキャッチコピーにはみんなが魅力的であり、南九州市の力（南力）という思いを込めたものがあります。それぞれの違うことを騒ぐのではなく、その違いを個性として認め合い、互いの長所を伸ばし合うまちづくりを行ってきたいというこれからの世代の希望にわれわれ大人は応えなければならぬと思。います。

地方創生の流れの中で

日本全体が直面しているように本市も少子高齢化、人口減少といった課題に苦慮しております。2050年には現在の人口の半分以下の1万5千人程度になると予想されています。各地域に目を向けると独り暮らしの高齢者や高齢夫婦だけの世帯が増えている反面、子ども数がなくなつたことで地域の学校が閉校するなど今までの地域コミュニティが維持できなくなっていることを直視しな



話題のパワースポットとしても有名な「釜蓋神社」

ければならない時期に来ています。人口の激減を防ぐための特効薬はなく、総合的かつ継続的な対策が必要であると考えます。

他方で、本市に居住する人だけでなく、本市を訪れる人口、すなわち、交流人口を拡大していくこともまち全体を活性化していくと考えています。2017年3月には、本市を経由し、鹿児島市から枕崎市までアクセスできる高規格道路の「南薩縦貫道」も開通しました。県都である鹿児島市への通勤、通学時間の短縮による定住者の増加だけでなく、「週末は南九州市でリフレッシュをしよう」と考える方たちとの交流が今後ますます増えることを期待しています。

新たな地域の活力

全国各地から注目され、さまざまな団体から表彰もされている額娃地域を中心に活動するNPO法人「額娃おこそ会」は、空き家再生など地域主導のまちづくりを進めています。従来の発想にとらわれることなく、活動している同団体を非常に頼もしく思っています。同団体には地域おこし協力隊

として2018年末現在、2名の隊員が活動していますが、まったく環境の異なる新天地で、地域おこし協力隊卒業後の起業を見据えて奮闘している若者の姿に地域住民が共鳴し、新たな活動に結びついています。

また、川辺地域においても廃校を活用した「かわなべ森の学校」がさまざまなイベントに活用され

ています。本年度は、内閣府の地方創生推進交付金事業を活用し、昔ながらの校舎の耐震工事などを行いました。地域の資源を活用したことで、活気あふれる人々が集う場が再生されています。

本市としては、行政と地域が互いに尊重し合う、「協働」を通じて将来を見据えたまちづくりを行っていきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 357.91km²
- ◆ 人口 3万5455人
- ◆ 世帯数 1万6769世帯

〔将来都市像〕人と自然が共生する活気あふれる 住みよいまち 南九州市

〔まちの特徴〕日本一の茶産地が広がる豊かな自然に囲まれ、歴史と伝統が息つき、平和を語り継ぐまち

〔市町村合併〕2007年12月1日、額娃町・知覧町・川辺町の3町対等合併



南九州市長
塗木弘幸

〔特産品〕知覧茶、かわなべ牛、さつまいも、川辺仏壇、鶏卵、焼酎、漬物大根

〔観光〕知覧特攻平和会館、知覧武家屋敷庭園群、番所鼻自然公園、瀬平公園、釜蓋神社、清水磨崖仏

〔イベント〕知覧ねぶた祭り、かわなべ磨崖仏まつり、川辺二日市、川辺祇園祭、えいのゴッソイまつり、小京都ふるさと祭



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。